

北九州市 中期計画

1971 ← → 1975

計画のうらづけ

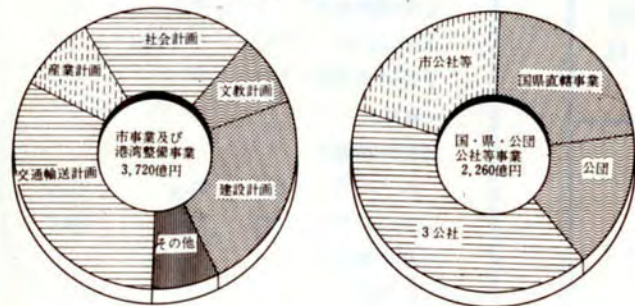
6,000億円の事業

昭和46～50年度の計画期間に市が行なう建設事業は、普通会計で2,100億円、特別会計、企業会計、港湾整備事業分1,620億円、あわせて3,720億円に達し、昭和41～45年度の実績1,322億円のおよそ3倍にもなります。

このほかに国、県、公社、公団等が行なう公共的な事業費を加えれば、計画期間中に6,000億円にものぼる建設事業費が本市のまちづくりのために投ぜられることとなります。

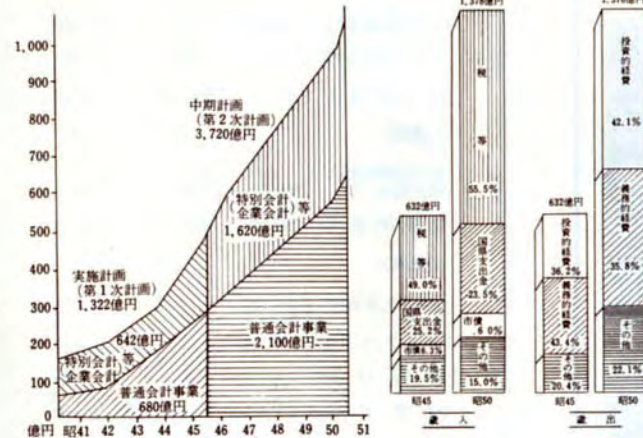
計画にかげられた事業は、こんごの新しい情勢をとりいれながら毎年度の予算の中で具体化されます。

総投資規模 6,000億円



市事業および港湾整備事業の推移

財政収支の推移 (普通会計)



地区ごとの発展方向

中期計画では、北九州市を豊かで均衡のとれた大都市に発展させるため、市域を13地域にわけ、その特性を生かした発展の方向づけを行なっています。

〔門司港地域〕 港湾、観光地域としての発展

〔大里地域〕 魅力ある住宅市街地としての発展

〔新門司地域〕 工業、住宅、農業の調和のとれた地域としての発展

〔小倉北部地域〕 都心にふさわしい商業、行政地域としての発展



河畔公園

〔小倉東部地域〕 農業、漁業、住宅工業の調和のとれた地域としての発展、流通拠点地区の形成

〔小倉南部地域〕 住宅、商業、農業レクリエーション地域としての調和のとれた発展

〔若松東部地域〕 新しい工業地域およびその後背地としての発展

〔若松西部地域〕 住宅、農漁業、観光、レクリエーション地域としての発展

〔八幡東部地域〕 魅力ある住宅市街地およびレクリエーション地域としての発展



自然休養林

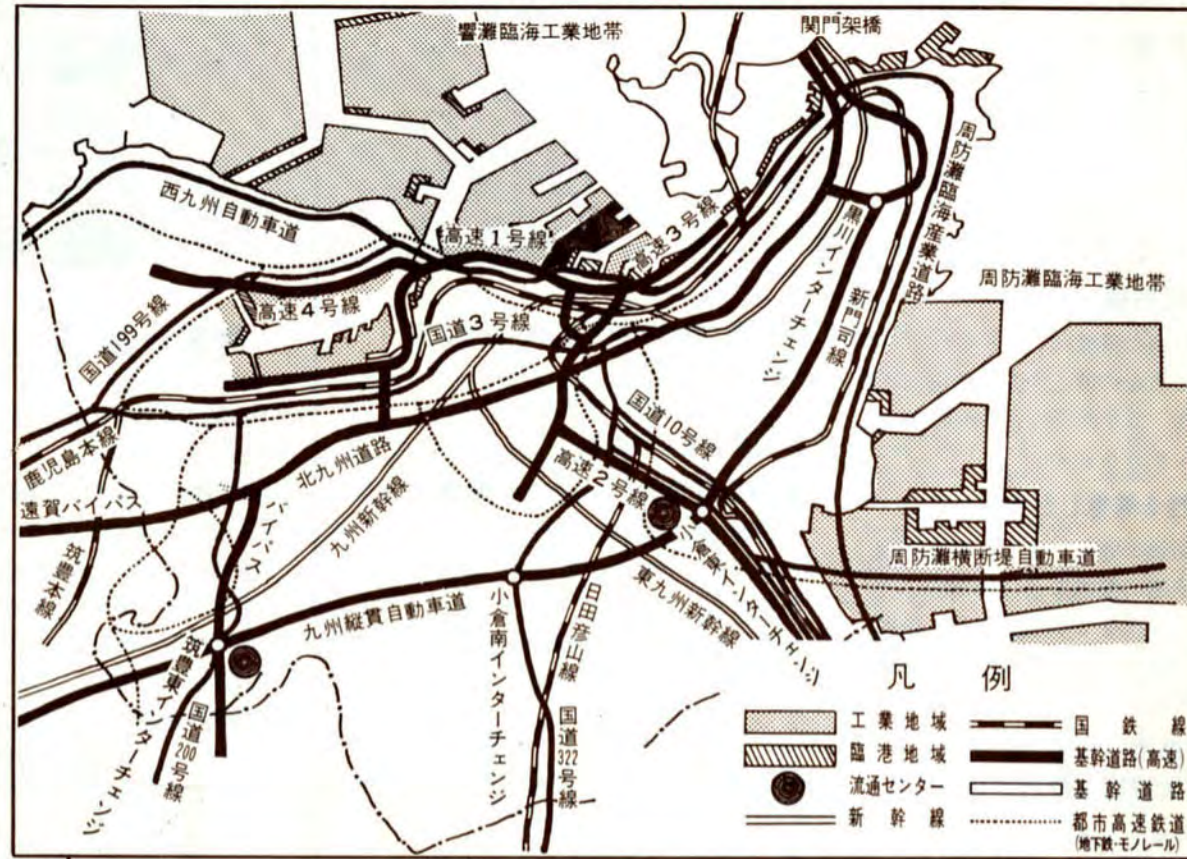
〔八幡西部地域〕 広い後背地をもつ商業地域および住宅地域としての発展

〔八幡南部地域〕 レクリエーション資源に恵まれた住宅地域としての発展、流通基地の配置

〔戸畑地域〕 土地利用の高度化をはかりながら、住宅市街地、文教地域としての発展

〔馬島・藍島〕 公共施設の充実と海のレクリエーション地区としての活用

開発構想図



昭和60年の北九州

経済や科学技術のすばらしい発展で情報化社会と呼ばれる新しい社会が出現しつつあります。新しい時代の北九州はどうなっているのでしょうか。

中期計画では昭和60年の北九州の規模を人口135万人、工業出荷額3兆円、商業販売額2兆8千億円と想定し、その姿をつぎのようにえがきました。

住居地区、工業地区が適正に配置されます。市街地の住宅は高層化され、海には、これまでとは違った工場公園的な工業地帯や大型の港湾が作りだ

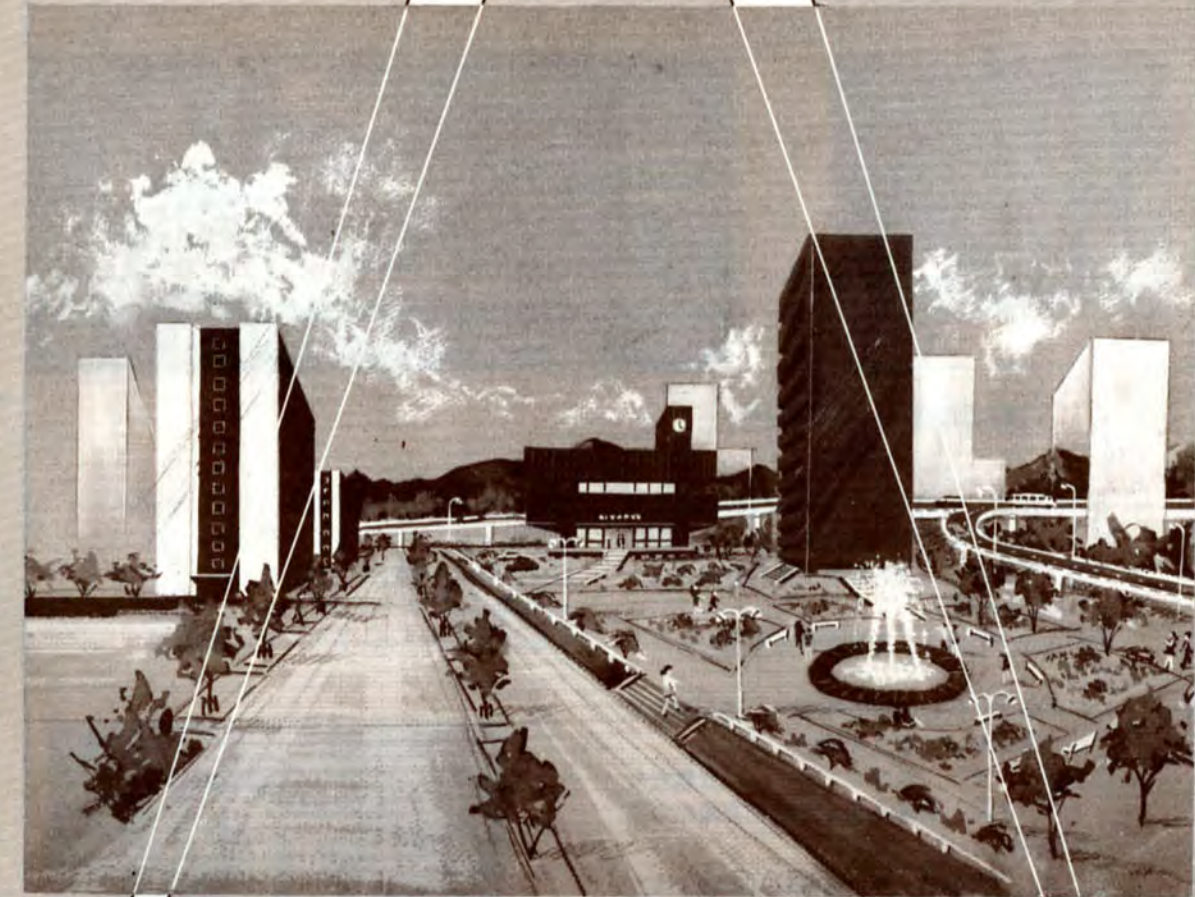
されます。一方自然も大切に保存され、いこいの場として活用されます。

市民の生活面では、住宅は1人1室以上の十分な規模のものになり、公園(1人当り6㎡)や下水道なども完備されます。

また、所得や余暇時間の増大につれてたかまるレクリエーション、教養、文化への欲求にこたえるため、すばらしい施設も整備されます。

都市生活の動脈である交通体系もとのい、地下鉄、モノレール、都市高速道路、海上の大空港なども出現します。

この時代の北九州は上図のようにその姿を変えることでしよう。



たのしくゆたかな大都市づくり

社会計画(721億円)

- 保育所の新増設をすすめ、1万人保育を実現する。(9億円)
- 小さな子どもの遊び場を増設し、特定街路を開放する。
- 老人のリハビリテーション、いこいの場として老人センターをつくる。
- 心身障害児者福祉センターをつくる。
- 民間社会福祉活動の中核となる福祉センターをつくる。
- 勤労者の教養、文化、体育向上のため勤労者会館をつくる。(10億円)
- 公害防止協定のていつ、規制の徹底、環境衛生研究所の整備、緩衝緑地の造成、工場の移転など、公害対策を強化する。(24億円)
 - 大気汚染…亜硫酸ガスの環境基準を計画期間内に、できるだけ早く達成する。

- 水質汚濁…洞海湾、響灘、遠賀川、紫川などの水質規制や浄化をすすめる。
- 生鮮食品を安定して確保するため、近代的な中央卸売市場をつくる。(48億円)
- まちの美化や緑化をすすめる。(11億円)
 - まちの美化…河川の美化、公共ごみ箱の1万個常設、公衆街灯1万灯増設、草刈りの徹底。
 - 都市緑化…道路、公園などへの植樹(10万本)をすすめる、市民緑化運動を推進する。
- 清掃工場の近代化・ゴミ・し尿の100%衛生処理、水洗化をすすめる。(53億円)
- 火葬場を統合、と畜場を近代化する。(19億円)
- 下水道の普及率を77%にたかめる。(448億円)



勤労者会館

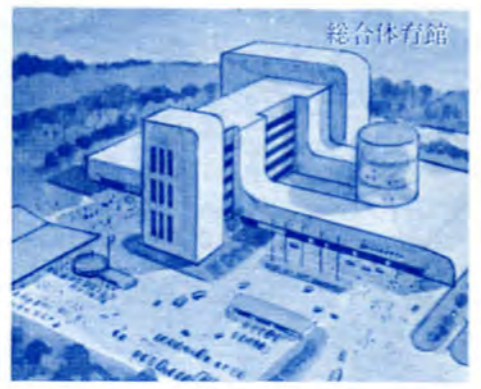


中央卸売市場

文教計画(281億円)

- 大団地づくりで人口の増える地区に小中学校を新増設する。老朽校舎をたてかえ、特別教室等を整備し、教室照明、冬季暖房をすすめる。(124億円)
- 幼稚園を整備し、養護教育を充実する。(7億円)
- 戸畑商業高校に情報処理学科、北九州大学に法学部を新設する。(6億円)
- 福祉センター、老人センター、社会教育センター、市民小劇場を含んだ総合会館をつくる。(10億円)
- 中央図書館をつくり、博物館を併設する。(7億円)
- 百万都市にふさわしい美術館をつくる。(5億円)

- 西日本一の総合体育館をつくる。(20億円)
- 屋外スポーツセンターの建設を始める。
- 小中学校の運動場、体育館の開放をすすめる、運動広場、プール、サイクリング道路、トレーニングセンターをつくる。(9億円)



総合体育館

中期計画とは

中期計画は、昭和40年に策定された「マスタープラン」の第2次実施計画です。計画では、昭和46年度から昭和50年度までの5カ年間に実施すべき主要な事業を市民のみなさんご意見を十分にとり入れてとりまとめました。これからの市政は、この計画を指針としながら運営します。そして、計画にかかげられた事業は毎年度の予算により具体化されていきます。

〈計画の目標〉

中期計画の目標は、ひとくちにいって、たのしくゆたかな大都市づくりであり、つぎの三つを計画の重点課題としてあります。

★人間性を尊重したまちづくり

公害対策の強化、まちの美化や緑化、下水道の整備などに積極的にとりくむ。自然を大切に保存し、市民のレクリエーションの場として整備をすすめる。

★百万都市にふさわしい大規模な施設の建設

市民の生活を向上させ、レジャー

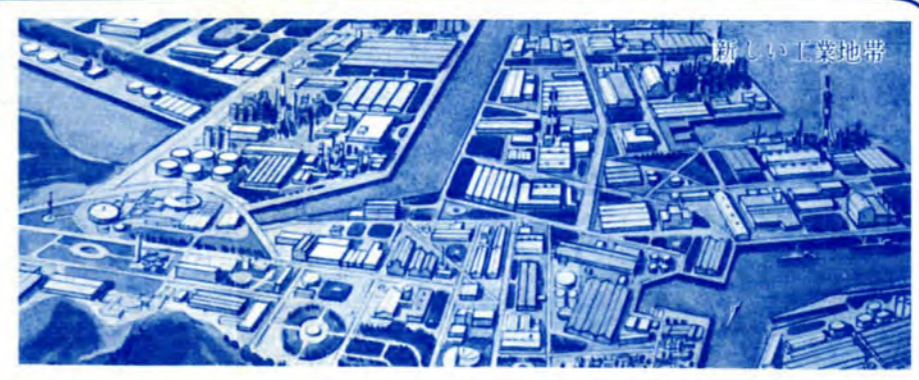
や教養・趣味の場となる大規模な施設を建設する。

都市高速道路・地下鉄・モノレールの建設をすすめる。

★産業貿易のいっそうの振興

響灘、周防灘の総合開発をすすめ、公害のない大規模工業地帯の建設をすすめる。港湾を整備、近代化し、貿易を拡充する。

中期計画はこのような事業を、社会計画、文教計画、建設計画、交通輸送計画、産業計画の五部門にとりまとめています。



新しい工業地帯

産業計画(387億円)

- 響灘臨海工業地域の開発をすすめる。(110億円)
- 周防灘総合開発の一環として、新門司臨海工業地域の開発をすすめる。(66億円)
- 遠賀川河口せきの築造、筑後川開発などで工業用水を確保する。(129億円)
- 物産展示、商取引、情報処理の中核となる商工貿易会館をつくる。(10億円)
- 国際貿易港「北九州港」を基盤に、貿易を振興し、中小企業の育成強化をはかる。

- 貨物の集配、貯蔵の拠点となる流通センターの建設準備をすすめる。
- 用水、排水施設、ほ場など農業基盤を整備し、都市近郊農業の育成をはかる。(22億円)
- レクリエーション農場としても利用できる農事センターをつくる。(2億円)
- 造林事業、林道整備をすすめる。(7億円)
- 漁場の整備と高度利用をすすめる。(7億円)
- めかり、平尾台、若松北海岸など国立国定公園地区を整備し、観光の振興をはかる。(12億円)

交通輸送計画(2,698億円)

- 歩道、防護柵、歩道橋など交通安全施設を充実し、交通事故をなくする。(45億円)
- 地下鉄、モノレールの建設を始める。
- 国道199号線(門司港一折尾)、322号線(小倉～日田)、北九州道路、九州縦貫自動車道など基幹道路の整備とバイパスの建設を進める。(427億円)
- 市道、都市計画街路などの新設、改良を進め市街地の全道路を舗装する。(356億円)
- 都市高速道路をつくる。
- 都心に立体駐車場やバスターミナルをつくる。(29億円)
- 山陽新幹線の早期完成、国鉄電車の増設新門司線の建設をはかる。

- 太刀の浦コンテナ港、響灘新港、新門司フェリー基地をつくる。(941億円)
- 小倉空港を拡張する。また、周防灘地区に大型海上空港をつくるための調査をすすめる。



都市高速道路

建設計画(1,046億円)

- 自然休養林を大規模なレクリエーション地区に整備し、野外訓練施設、総合野外活動センター、子どもの国などを配置する。(6億円)
- 北九州自然遊歩道(風師～足立、貫～平尾台～福智～河内～皿倉)をつくる。
- 平尾台、頼田地区、若松北海岸を自然公園として整備する。(7億円)
- 公園、子どもの遊び場を拡充し、大公園を特色づけながら整備する。(50億円)
- 小倉駅前、黒崎駅前、新幹線関連地区の再開発や不良住宅改良事業をすすめる。(90億円)
- 市営住宅11,000戸、公社住宅4,200戸を建て、心身障害者、老人など特定世帯向住宅を確保する。(443億円)



高層住宅団地

- 中高層住宅建設や区画整理事業をすすめ、環境のよい住宅地をつくる(108億円)
- 油木・ます湖両野水池、遠賀川河口せきをつくり、飲み水を確保する。(190億円)
- 河川の改修浄化をすすめる、用水路を整備する。(52億円)

〈市勢〉	昭45年	昭50年
人口(千人)	1,050	1,129
商業販売額(億円)	6,455(43年)	12,140
工業出荷額(%)	7,684(43年)	12,500
市財政規模(%) (普通会計)	652	1,378
市投資的経費(%) (普通会計)	229	580
〈生活環境〉		
市営住宅総数(戸)	17,300	28,300
市公社住宅総数(%)	5,000	9,200
都市公園数(か所)	357	417
市民1人当りの都市公園面積(m ²)	3.06	4.06
小さな子どものための遊び場(か所)	170	240
保育人員(人) (公私立を含む)	7,400	10,400
植樹(本)	100,000	
公衆街灯増設(灯)	10,000	
公共ごみ箱(個)	10,000(常設)	
ごみの衛生処理(%)	61.6	100.0
し尿の衛生処理(%)	49.1	100.0
水洗化人口(千人)	149(44年)	413
下水道普及率(%)	24.6	77.0
〈教育〉		
特別教室整備率		
小学校(%)	51.6	100.0
中学校(%)	72.1	100.0
学校不燃化率		
小学校校舎(%)	55.7	74.1
体育館(%)	67.5	91.0
中学校校舎(%)	55.8	75.6
体育館(%)	93.0	100.0
〈上水道〉		
上水供給能力(1,000t/日)	494	668
1人1日使用量(l)	489	562
水道普及率(%)	85.5	94.0
〈道路〉		
都市計画街路の改良延長(km)	153.5	188.5
市道舗装率(%)	48.1	100.0
〈港湾〉		
コンテナ岸壁(バース)	1	3
フェリー岸壁(%)	2	6
外貿岸壁(%)	29	45
内貿岸壁(%)	48	94